
バカな少年は召喚獣!?

広地 永久

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカな少年は召喚獣！？

【Zコード】

Z0374Z

【作者名】

広地 永久

【あらすじ】

プロフェッショナル・プログラミングかなが
PKO 桜藏 奏は、ある口学園長室にて『喰』び出された。

……召喚獣として。

「ええっ！？ 早く俺を元の世界に返してくださいーー！」

「おかしいねえ……ウイルスだったのかね？ そういうや今朝眠気に耐えかねてキー ボードの上に突つ伏したような

「このババアーー！」

とりあえず普通の人間のまま召喚された奏は文月学園に編入する事になつたが……。

「あ、あの、それで俺の『ショウカンジュウ』って、どうあるんですか？」

「お前自身に戦つてもらおうか」

「前に読んだ本の主人公が言つてた。『まずはそのふざけた幻想をぶち壊す』つて」

「……冗談だよ」

奏は無事に学園ライフを送ることが出来るのか？ また。元の世界に帰る事が出来るのか？

プロローグ バカとババアと召喚獣(?) (前書き)

やつちまつた……これから受験で忙しいのに……
読んで下さる神様方、どうか永久を温かい目で見守ってください。

プロローグ バカとババアと召喚獣(?)

学園長室
ババア

力タカタカタ……。

「これでよし、と……。それじゃあ吉井、召喚獣を喚んでくれるかい？」

軽快にキーボードを叩く音がしてから5分ほど。少し間をおいて、エンターキーをタンドツと鳴らしながらババアこと学園長がつぶやいた。

「はい、分かりました。本当にもうトラブルは解消されたんですね？」

物理干渉召喚獣(?)システムが今朝トラブルったとか言ってたけど、何でトラブルなんか起こしたんだろう?

「ああ、もちろんんだとも。ほら、アタシも忙しいんだ、早くしな」

……つぐづぐむかつくババアだ。んー、僕自身もあんまり長くは「ココに居たくないし、さっさと済ませて帰っちゃおう。

次の授業は鉄人が来るから、遅れちゃつたらややこしい事になるし。

一呼吸置いて、召喚獣を呼び出す為の言葉をつぶやく。

「試験召喚つ……」

……シーン

「あ、あれ？ 召喚獣が出てく

」

言いかけた次の瞬間。

ダンツ！！ という耳をつんざくような爆発音が鳴り響き、白い煙がもうもつと現われた。

「が、学園長…… 一体これはなんなんですか！？」

「ああ？」

煙のせいでもシルエットしか見えないけど、なんとなくババアが肩をすくめているのが分かる。

「このババア……！！ さあ？ って、明らかにババアの責任じゃないか！！

「う、爆音のせいです」「耳が痛いよ……。

煙の中じゅうじゅうに動く事も出来ないので、その場でじっとする。しばらくすると、煙が引いてきた。そして

同時刻　？？？

「本も読み終えちまつたし、何にもする事ないな……暇だ、暇すぎる……！」

「桜藏君？」 そんなにヒマヒマ言ひてゐなり、ひやんと授業を受けなさい。あなたはただでさえ他の人たちよりも勉強する必要性があるのだから」

え？ 授業？

周りを見渡すと、周りの皆は世界史の教科書やノートを開き、授業を受けていた。

クラスメイト達から、ドッとも笑いがこぼれだす。それと同時に、授業終了を告げるチャイムが鳴った。

俺、ずっと授業に気づかないと本読んでたのか……。道理で集中して本が読めるなーなんて思つたり……。

「はい、これで授業を終わります。皆さん、次も『せひんと』授業を受けてくださいね」

は、恥ずかしい…………！

絶えられなくなつて、教室を出る。

「あー、もうこんなのは嫌だー……。授業なんて受けなくても大丈夫なところに行きたいー！」

と、つぶやいた所で。

突然、激痛が体中を駆け巡った。

「ツーリー！」

耐え難い苦痛に、声も出ない。俺、もしかしたらこのまま死ぬかも……。

なんだか激痛のせいで逆に冷静に考える余裕がうまれてきた。
ユーユーのなんだつけ、授業で習つたぞ？ し、し、えーと……。

「そーだそーだ、『心筋卒中』だ」

その言葉を最期に、俺は意識を手放した。

再び学園長室

「あー、学園長？」

「なんだい？」

「「」の銀髪の人、誰ですか？」

「召喚獣……なのかねえ？」

「いやいやいや！！ 絶対違うでしょ！！ 何で召喚したら人間が
出でくるんですか！？ 大体、僕とは背格好とかも全然違うし……
つていうか、この人意識ないですけど大丈夫なんですか？」

「まあ待ちな。召喚獣ならフィールドを消せば元に戻るはずさね」

そう言つて学園長はフィールドを消す。異次元的な空間は、一瞬
にして別の学園長室に戻った。

「気のせいでなければ普通に見えてるんですけど」

「召喚獣じゃないみたいだね」

「当たり前でしょー!？」

僕と同じ年ぐらいの銀髪の男の子……正しくは、『意識を失つて
いる謎の『銀髪の男の子は、フイールドが消えても召喚獣のように
消滅する事はなかつた。

煙が晴れる前はこんな人いなかつたし、爆発したときに誰かが入
つてきたような感じはしなかつたし……。

とりあえず保健室に連れて行かないと。

男の子を背負つてみると、僕よりも背が若干低くて、とても軽い
事が分かつた。

普段一体何を食べて暮らしてるんだろう?

じゃなくて。

大丈夫、だよね……?

僕とババアは、保健室へと向かう為学園長室を出た。

プロローグ バカとババアと召喚獣(?) (後書き)

「」意見「」感想アドバイスなど、心よりお願いいたします(ペコ)。
……あれ、あ、お待ちします!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0374z/>

バカな少年は召喚獣!?

2011年12月1日15時54分発行